

フレッシュマンコーナー

最近のマイブーム

宇部市医師会 (医) 社団うのしま内科クリニック

浦山 直樹

平成 27 年 4 月、宇部市浜町に「うのしま内科クリニック」を開業した浦山直樹といます。父親の「うのしま医院」を継承するにあたり名称変更をしました。うのしま医院開業から今年で 40 年であり、息子が跡を継いでダメになったと言われないよう、精進していく所存です。

私は平成 12 年に福岡大学を卒業後、山口大学第 1 内科に入局しました。2 年間の研修期間を終え大学に戻った際、当時の 1 内科には肝臓班・肝炎班・食道班・胃班・大腸班・胆膵班があり、どれかを選択することになっていたのですが、当時の胆膵班チーフであった近藤 哲 先生(現：徳山中央病院)に誘われ胆膵班の道を進むことになりました。2 年目からはチーフが良沢昭銘 先生(現：埼玉医科大学国際医療センター)となり、胆道・膵臓疾患の内視鏡を用いた検査・加療に全力で当たっていました。3 年目を過ぎたころから、何とか一人で検査治療を完遂させることが出来るようになり、県内各地及び北九州まで検査・治療で出張に出かけることが多くなりました。当時、数多くの病院から依頼を頂き、多くの先生方にお世話になりましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。多いときには 1 日に 3 か所の病院を巡ることもあり、車の走行距離も尋常では無いにもかかわらずメンテナンスを怠った結果、北九州の都市高速道路でエンジンベルトが破損し、立ち往生になってしまったのも今ではいい思い出です。

平成 19 年から 5 年間、小倉記念病院消化器科、平成 24 年から 3 年間、宇部興産中央病院消化器

科での勤務を経て、開業に至っています。開業してから 2 年経過しましたが、先日、宇部医師会報にその内容を寄稿させていただいたばかりで、同じ内容を改めて書くのもどうかと思いながら、かといって何を書くか考えあぐねている間に締切が近づいている次第です。

というわけで、今年に入ってから「落語」を聴き始めたのでそれについて書かせていただきます。昔から落語には興味があったものの、何から手を付けていいかもわからず、落語家といっても「笑点」に出てくるメンバーくらいしか知らない。漠然と、敷居が高くとっつきにくい印象もあったのですが、とりあえず古典落語からはじめてみよう、と思い至り「芝浜」「死神」「猫の皿」「粗忽長屋」「寿限無」「饅頭こわい」などから聴きはじめました。同じ演目でも、落語家によって変化もありかなり興味深く、今のところは、立川談志の「饅頭こわい」と 2 代目桂枝雀の「茶漬えんま」がお気に入りです。車を運転中に聴いているのですが、大体 30 分以上ある噺が多く、遠出する時には噺を聴いているうちに気づけば目的地に着いているので、長時間の運転もあまり苦になりません。まだかなりの落語初心者ですので、お気に入りの噺や落語家さんを見つけるまでは時間がかかりそうです。数百年続く伝統芸能を楽しむには根気がいるのですが、マイブームから趣味へと昇華できるくらいには探求し続けてみようと思っています。